

これまで地域と歩んできた道のり

創立以来46年目を迎え、地域に寄り添い、愛されてきた青森県立中里高等学校が今年度末で閉校します。

■沿革

昭和50年 県教育委員会と県議会の両方で高校の設置が議決される

昭和51年4月9日 開校式と第1回入学式挙行政

11月6日 創立記念式典と校舎建設落成式開催。校歌と校旗を制定、披露

この日が開校記念日となる

昭和55年 県高等学校運動部活動奨励賞を陸上競技部が受賞

昭和56年 校訓の碑除幕式挙行政

昭和61年 県高等学校運動部活動奨励賞をサッカー部が受賞

平成5年 学校活性化推進事業の指定校となる

平成28年 中里高校SBP(ソーシャル・ビジネス・プロジェクト)結成。現在も地域活性化のために活動中

令和元年10月23日 令和2年度から募集停止となり、令和3年度末に閉校となること決定

令和3年10月2日 閉校式典を挙行政

■閉校式典

10月2日(土)に中里高校体育館で閉校式典が行われました。式典の様子はYouTubeでも配信され、多くの人に見守られながら今までの歴史をふり返りました。式典には、歴代の校長や同窓会会長、PTA会長も参列しました。



白濱卯校長は「生徒と先生が協力して充実した学校生活を送ってきた。今は最後の在校生たちを立派に育て上げることが教師の最大のミッションだと思っている。在校生とこれまでの卒業生は、中里高校が存在した証であり、誇り。中里高校で過ごしたことを誇りに思い、がんばってほしい」と生徒への思いを語りました。

生徒会長の外崎和葉さんは「先輩たちが卒業して在校生が自分たち10人しかいなくなるときは、とても不安だった。でもそれは杞憂で、家族や先生、地域の人たちや卒業生などたくさんの方がいつも見守ってくれていた。この中里高校で学んだことは、これから社会を生きていく上で励みになる」と感謝の言葉を述べました。

■地域に根差した活動

全校生徒・教員が丸となって地域貢献をしようとするさまざまな活動を行ってきました。町運動公園の落ち葉・小枝の片づけや内湯療護園・静和園での窓ふきや車いすなどの介護用品のふき掃除、利用者の屋外の散歩の手伝いなどの全校奉仕活動を昔から行ってきました。最近では、コメ米ロードに面する「うるおい広場」に、福浦コスモス会の皆さんと一緒にサルビアの苗を植えました。他にも、地域連携企画として、中里小学校の児童たちとバルーンアート制作体験が行われました。

中里高校は、さまざまな活動で地域の皆さんに寄り添ってきました。



■これまでのSBP同好会の活動

平成28年に当時の2年生と1年生で町の人や自然、歴史といった地域資源を活用しながら地域の活性化を図ることを目的とする中里高校SBP（ソーシャル・ビジネス・プロジェクト）同好会が結成されました。

SBPでは、これまでたくさんの方の地域活性化のための商品がつくられてきました。

まず、中里高校・鱒ヶ沢高校・木造高校深浦校舎それぞれのSBPが連携して、セレクトギフトボックスが作られました。

SBPが町の特産品を厳選し、自分たちで仕入れまで行って作り上げました。ボックスの中には、はとむぎかりんとう、やわらかのしいか、ブルーベリーつぶこるジャム、しじみチャウダーなど中泊の食の魅力がたくさん詰まっています。



その後、「メバ焼き！」が作られました。自分たちでオリジナルの焼き型を使い、地域活性化をしたという思いからつくられました。生徒たちは焼き型の形をさまざま考えるなかで、町が行っている「メバルによる町おこし」の手伝いをしたいと考え、メバルの形にしました。中に入れる餡はメバル料理推進協議会の協力のもと、ブルーベリー餡、トマト餡と中泊らしいオリジナル餡を完成させ、使いました。完成したメバ焼きは、さまざまなイベントなどで売られ、たくさんの方に人気の商品でした。



そして、最近では激辛マーボーラーメンが作られました。町内の事業者が熊の忌避剤を製造するために使用していたジヨロキアを料理に使用して町おこしができるか考え、レシピの考案や激辛コンテスト開催など、レシピ開発に取り組んでいました。ハバナ口の10倍の辛さがあるジヨロキアを使っているため、とても辛く、現在もたくさんリピーターや挑戦者がいて人気の商品になっています。駅ナカちゃんこ食堂、くつろぎダイニング「哲」、レストラン竜泊で提供されているのでぜひ食べてみてください。

最後に毛色は違いますが、今年には「中高ラジオ」と「なかどまりカルタ」が作られました。

家などにも観光している気分が味わえる中高ラジオや町の食や観光名所など、一から選り抜いたカルタ。たくさんの方の魅力が詰まった「中高ラジオ」と「なかどまりカルタ」は、先日特別養護老人ホームきりん館へ贈呈されました。



■未来へ

高校という形はなくなっても、生徒のがんばりと思い出までは消せない。最後の卒業生となる在校生の皆さん、高校生活で体験したことを誇りに思い、思い出を胸にがんばってください。

そして、現在町では、閉校後の校舎と土地を地域振興などを目的として有効利用するため、県と協議しています。用途は、今後検討していく予定です。

また、総合文化センター「パルナス」では中里高校の思い出の資料を展示する予定です。ぜひ公開された際には46年間の歴史が詰まった思い出の品々をご覧ください。